



2022年6月14日

各位

会社名 株式会社 A B & C o m p a n y
代表者名 代表取締役 市瀬 一 浩
(コード番号：9251 東証グロース市場)
問い合わせ先 取締役 C F O 経営管理本部長
永 島 光
TEL. 03-4500-1383 (代表)

2022年10月期通期業績予想の修正に関するお知らせに関する想定Q&A

本日付けで開示いたしました「2022年10月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」につき想定Q&Aを作成いたしましたのでお知らせいたします。

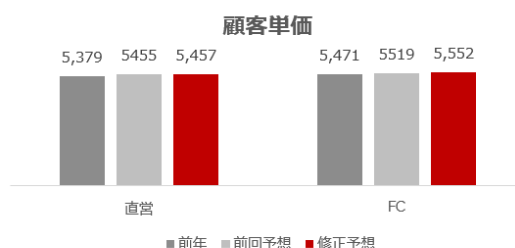
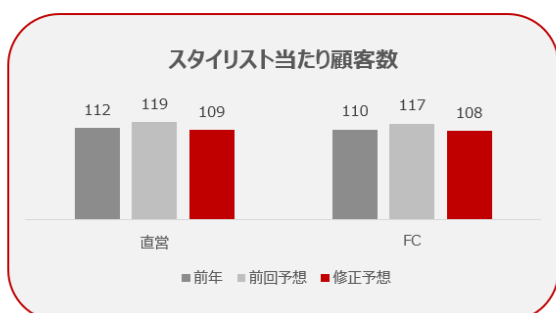
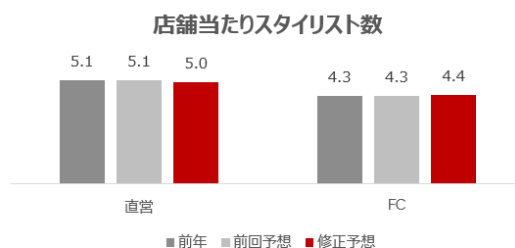
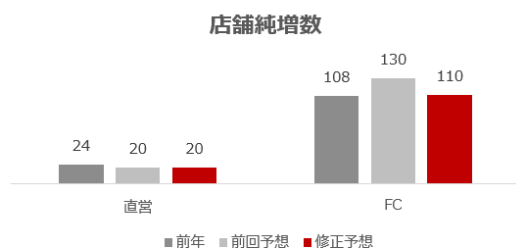
今回の下方修正の要因を教えてください。

コロナ・オミクロン株による感染波は感染者数の絶対数が非常に多かった事から、お客様側の事情のみならず、当社スタイリスト側の各種事情（スタイリスト並びに同ご家族の感染、保育・教育機関の閉鎖等）により店舗運営体制にも大きな影響が発生いたしました。結果として第1四半期については当初計画を大幅に下回る結果となっており、第2四半期についてもネガティブな影響が残っている状況であります。加えて、出店環境の悪化から新規出店に対しても計画に対して遅れが発生いたしました。

まん延防止等重点措置が解除され、4月以降は回復基調にあることは確認できているものの、上期の予算との乖離を下期でカバーするのは困難と判断し、今回の通期着地見込みの下方修正に至ったものです。

修正計画につき、主要KPIはどのように見込んでいるのでしょうか？

以下の通り見込んでおり、スタイリストあたり客数の計画を大きく下方修正しております。加えて、FCの店舗純増数を20減少させ、直営を含めた店舗の純増数は合計で130に変更しております。



また、より詳細な4半期毎のKPIは以下の通り見込んでおります。特に、今回業績修正の主要因となった「スタイリスト当たり顧客数」について、下期も新型コロナウイルスが上期の水準からほぼ回復しない前提で策定しております（4Qは昨対+1%としておりますが、2021年10月期の4Qはデルタ株最盛期のタイミングであったため）。

直営

	1Q			2Q			3Q			4Q			通期		
	202110	202210	増減	202110	202210	増減	202110	202210	増減	202110	202210	増減	202110	202210	増減
店舗数 (Q末)	223	247	11%	231	252	9%	241	260	8%	243	263	8%	243	263	8%
店舗当たりスタイリスト数	5.1	5.0	▲1%	5.1	5.0	▲3%	5.1	5.0	▲2%	5.1	5.0	▲2%	5.1	5.0	▲2%
スタイリスト当たり顧客数	112	108	▲3%	114	109	▲4%	114	112	▲2%	108	109	1%	112	109	▲2%
顧客単価	5,360	5,427	1%	5,366	5,473	2%	5,447	5,505	1%	5,341	5,422	2%	5,379	5,457	1%
総店舗売上高 (百万円)	2,044	2,197	7%	2,134	2,244	5%	2,258	2,396	6%	2,122	2,312	9%	8,558	9,150	7%

FC

	1Q			2Q			3Q			4Q			通期		
	202110	202210	増減	202110	202210	増減	202110	202210	増減	202110	202210	増減	202110	202210	増減
店舗数 (Q末)	341	437	28%	371	465	25%	396	487	23%	417	527	26%	417	527	26%
店舗当たりスタイリスト数	4.3	4.4	1%	4.3	4.5	3%	4.3	4.5	4%	4.4	4.4	1%	4.3	4.4	2%
スタイリスト当たり顧客数	109	105	▲3%	113	110	▲3%	114	111	▲3%	106	107	1%	110	108	▲2%
顧客単価	5,408	5,542	2%	5,465	5,576	2%	5,531	5,587	1%	5,469	5,502	1%	5,471	5,551	1%
総店舗売上高 (百万円)	2,545	3,310	30%	2,894	3,653	26%	3,164	3,962	25%	3,099	4,002	29%	11,702	14,926	28%

(注) 2022年10月期は1Q及び2Qは実績値、3Q及び4Qは予想値であります。

修正計画につき、4半期毎でのPLはどのように見込んでいるのでしょうか？

以下の通り見込んでおります。

第1四半期 (実績) : 売上 2,700百万円 / 営業利益 194百万円

第2四半期 (実績) : 売上 2,973百万円 / 営業利益 311百万円

第3四半期 (計画) : 売上 3,159百万円 / 営業利益 419百万円

第4四半期 (計画) : 売上 3,198百万円 / 営業利益 387百万円

尚、第3四半期の営業利益は、四半期利益ベースで過去最高となる見込みです。また、株主優待導入に伴う引当金計上費用は第4四半期に35百万円を見込んでおります。

株主優待導入費用が一定程度販管費増に繋がっているということですが
継続は可能なのでしょうか？

今期、株主優待導入に伴い引当金を計上する見込みですが、その費用は前述の通り35百万円程度と見込んでおります。当社の利益水準を鑑みると十分継続可能な費用水準であると認識しております。

今回の業績下方修正により、配当予想 (1株あたり28.07円) は修正しないのでしょうか？

来期以降も安定的にキャッシュを創出し続けることが可能であると認識しており、配当予想の修正は不要であると理解しております。

2022年6月14日付開示の「当社連結子会社による株式取得 (孫会社化) に向けた基本合意書締結のお知らせ」による影響は織り込まれているのでしょうか？

当該株式取得が2022年10月期業績に与える影響は軽微であるため、織り込んでおりません。一方で翌期である2023年10月期においては売上収益で37億円程度、営業利益で1.4億円程度、EBITDAで2.9億円程度の増加インパクトを見込んでおります。

以上